NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会 会報 No.73 2016.6.10

やませみ

もくじ

●帰ってきたガマ
●ほとけどじょうの里にミツバチが戻って来た！
●とび出そう自然の中へ
●古民家の将来
●環境省・重要里地里山に天覧山・多峯主山が選定！
●小説「美しい星」が映画化!
●第5回「てんた里山バザール」
●東谷津ほとけどじょうの里 作業と石窯のご案内
●ふる里散歩

http://www.tenranzan.com/ tenta@tenranzan.com
●「やませみ」へのご意見を上記アドレスへお寄せください。投稿もお待ちしています。

ふる里散歩

天覧山周辺の自然に親しめるふる里散歩へどうぞふるってご参加ください。

各回共通 主催/てんたの会 共催/はんのう景観トラスト、(公財)埼玉県生態系保護協会飯能名栗支部 7月、8月、9月、1月は、はんのう市民環境会議も共催

7/17(日)「虫ムシ探検隊」の巻

雨天中止

飯能の森で生きる虫たちに出会いに、さあ出かけましょう！

集　合/ 飯能駅南口　午前9時集合(解散:12時)
持ち物/ 飲み物、蜂対策でサンダル・黒い服装禁止
要申込/ 先着20名(小学3年生以下は保護者同伴)
申込先/ さいたま緑のトラスト協会
048-824-3661(7/1～受付)
参加費/200円

8/7(日)「夏休み子ども企画！名栗川を歩こう」の巻

雨天または増水時中止

名栗川の水生生物を観察しながら川を散策します。

集　合/ 飯能市郷土館玄関前　午前9時30分
要申込/ てんたの会(042-974-1691　浅野)
持ち物/ 弁当、飲み物、帽子、着替え、川を歩ける服装(運動靴で)
参加費/ 大人・子ども共300円

9/11(日)「秋の野草観察会」の巻

雨天中止

初秋の天覧山周辺で、野草の可憐な花々を　観察しながらの楽しい散策です。

集　合/ 能仁寺山門前　午前9時30分　解散13時頃
要申込/ てんたの会(042-974-1691　浅野)
持ち物/ 弁当、飲み物、帽子、筆記用具、山道を歩ける服装
参加費/ 大人300円(子ども100円)

10/10(月・祝)

雨天中止

第5回「里山バザール」

午前11時～午後3時(雨天中止)
「ほとけどじょうの里」で今年も「里山バザール」を開催します。詳細は別記を参照してください。

11/23(水・祝)

参加費無料　雨天中止

天覧山谷津の里づくりプロジェクト「里山復活祭」昼食付き

天覧山下の"ほたるの里"で谷津田の保全作業を行います。谷津田でできたごはんで昼食！

集　合/ 市民会館北側中央公園トイレ付近　午前9時
要申込/ 042-973-2125　はんのう市民環境会議事務局(市役所環境緑水課)
持ち物/ 軍手・タオル・飲み物
＊主催:はんのう市民環境会議　協力:てんたの会

12/11(日)「里山のリース作りエコツアー」の巻

大好評企画「里山のリース作り」里山の恵みを分けてもらって、世界にたった一つのリースを作ります。午前中は山歩き、昼食後リースを作りますが、雨天の場合は午前中よりリース作りとなります。

集　合/ 郷土館玄関前　午前9時半
要申込/ 先着15名　てんたの会(042-974-1691　浅野)
持ち物/ 飲み物・お弁当・山道を歩ける服装
参加費/ 1500円

2017年1/1(日)「初日に祈る山歩き」の巻

参加費無料　雨天中止

九州での大地震を目の当たりにし、自然の厳しさを痛感せずにはいられません。
新しい年の平安を願い山を歩きましょう。

集　合/ 能仁寺山門前　午前6時15分
要申込/ てんたの会(042-974-1691　浅野)
持ち物/ 飲み物・山道を歩ける服装

ご案内 東谷津ほとけどじょうの里・作業と石窯

毎月第2、第4日曜日　10時～15時

東谷津ほとけどじょうの里では、基本的に月2回(第2、第4日曜日の10時～15時・・・作業日は変更する場合があります。参加される方は事前にご連絡ください。)現地に集まり、保全作業や石窯でのパン作りなどを行っています。作業は、トラスト地の整備、薪作りなどです。またみんなで手作りした大きな石窯で、パンやピザや焼き芋を焼いています。ぜひ、お気軽にご参加ください！(問い合わせ:早瀬042－977－1890)

やませみ 73
発行日/2016年6月10日
編集・発行/NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会
事務局/TEL042-974-1691(浅野正敏)
埼玉県飯能市柳町18-17
イラスト・デザイン/石岡真由海

会員募集中！

1995年、巨大住宅団地開発の計画がきっかけで発足した「NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会」は、この地の自然をいつまでもという思いで、様々な活動を続けています。どうぞあなたも会員になって活動を支えてください。

＊年会費　●正会員……普通会員2,000円、特別会員10,000円
●賛助会員…1口10,000円
＊会費・カンパ送り先…郵便振替口座 00580-9-16342
「NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会」

戻ってきたミツバチ

ほとけどじょうの里に ミツバチが戻って来た！

文・写真／大石　章（てんた養蜂部）

毎年春が近づくと、今年はミツバチが戻ってくるかなあと思い、巣箱の手入れをします。ミツバチの巣箱は、４つあったのですが、極悪人に２つ盗まれ（見かけた方は御連絡ください）、１つは倒れた桜につぶされ、１つだけしかありません。蜘蛛の巣を払い、入口が割れていたのを、スズメバチが入り込めないように狭くしました。

東谷津作業日の4月10日、さいたま市から遊びに来た子どもたちが「ハチがブンブン飛んでいるよ。」と教えてくれました。見に行ってみると、桑の木からニホンミツバチの群れが垂れ下がっています。「分蜂だ！！」

ミツバチは、春になると新しい女王蜂が誕生し、まず古い女王蜂が働き蜂を半分程引き連れて元の巣から出ていきます。これを分蜂といいます。分かれた群れは、しばらくこのように塊となって、新しい住居を探します。ちょうどそこに出くわしたという訳で、大変ラッキーなことでした。子どもたち、ありがとう！！

さっそく巣箱を持ってきて逆さにし、群れを手で落とし込みました。すなおに入ってくれて、おとなしいハチ達は素手での作業にもかかわらずまったく刺しませんでした。

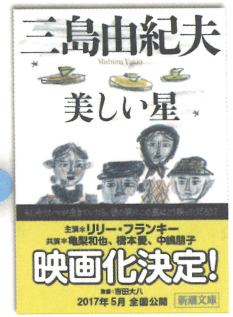
巣箱を設置してからしばらくは落ち着かなそうでしたが、だんだんおとなしくなり、1週間後に見に行くと、働き蜂は花粉を運び込むなど整然と働いていました。巣盤を作っているところと思われます。ミツバチが戻ったというと、皆すぐに「蜜はいつ採るの？」と聞きますが、まずは群れを２群、3群と増やしてからになりますので、早くても来年の秋以降になると思われます。今度は逃げられないように頑張ります。

小説「美しい星」が映画化!

文：重一郎の息子KAZUO

人類の核開発に地球の危機を感じた飯能市に住む一家が、自らを太陽系の使者と信じ、天覧山の山頂に登り宇宙からの連絡を待つ。三島由紀夫の飯能を舞台にした小説「美しい星」の映画化が決まり、リリー・フランキー、亀梨和也、中嶋朋子、橋本愛らの豪華キャストで来年５月に全国公開されます。

映画の公式ホームページはこちら→http://gaga.ne.jp/hoshi/

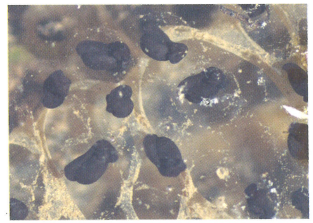


帰ってきたガマ

文・写真／山梨光明（会員）

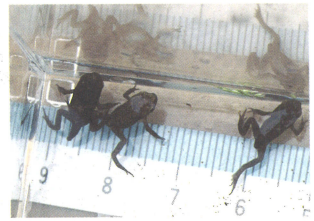
ガマ（アズマヒキガエル）

ひも状の卵塊。



ひもに穴があき、ダルマ肺で浮きでてくる。

オタマジャクシは小さい（右はアカガエル）。



長い尾が退化し変態してガマとなり集団で上陸する。

４月、ため池の水底にぐちゃぐちゃとしたひも状のものが沈んでいた。「おっ、ガマ（アズマヒキガエル）の卵塊だ！」。東谷津では２０１１年、ほたるの里では２０１２年より確認していない。奇しくも今年両谷津で産卵が再開された今、なぜ産卵されなくなり、なぜまた再開されたのかを整理しておくことにした。

谷津に集まる人たちに聞いてみると、「アライグマが卵もカエルも喰うらしいよ」「イノシシがカエルを喰っちゃったんじゃねえの」などとのうわさ話的な風説や、「以前、ヒキガエルの産卵中にカエルが食べられた痕跡があった（血が残っていた）」「アライグマが数少ないメスを食べてしまった」「その後、雨乞いの池（ここまでアライグマが来なかった）などで繁殖していたヒキガエルが降りて来てまた繁殖が始まった」などの学識的な論説も聞かれる。

確かにアライグマもイノシシもこの谷津にはいるがそれだけなのだろうか。どうもピンと来ない。一方、卵塊が見られなくなる前後から、天多の森では広範囲で大々的に間伐や皆伐が一挙に行われ、山の乾燥化という彼等にとってはかつてないほど生活環境が変わってしまった事も大きな理由として付け加えなければならない事だろう。ここ2年ばかり伐採も落ち着き、山肌は順次灌木に覆われ、生活環境が整い始め、また戻って来たのではないだろうか。

いずれも推論であり、来年以降も継続的に産卵されるように専門家の見解を聞き、それを両谷津で行われている「里山復活」「ビオトープ」、さらには天多の森全域の管理手法に反映してゆく事が大事ではないかと思う。（＊6／26・市郷土館の講座「飯能に生息するカエルたち」があります。）

あの神秘的なふ化（長いひものあちこちに穴があき、ダルマ肺の状態で浮き出てきて、やがて水底に沈み、さらに細胞分裂が進みオタマジャクシになって泳げるようになるまでじっと待つ）と、極小のガマの集団がぞろぞろと上陸するのが見られるなんてなんと楽しみなことか。他方、アカガエルとトウキョウサンショウウオの卵塊が激減してきているのも注目すべき事実だ。

とび出そう自然の中へ―自然体験から環境教育へ、学校のはたすべき役割―

飯能市のこどもたちの体験学習

飯能市内の小学校で、総合学習・学習林活用教育推進事業での自然体験活動に関わって10年以上になります。時代の移り変わりとともに学校の総合学習は先細りとなり、学校の学習指導要領が分厚くなって、教室の中での授業が増える中、外での自然体験が減っています。

飯能市は学習林活用教育推進事業を平成20年度に立ち上げ、市内全小中学校で学習林を定め、林業体験を含めた自然体験に取り組んでいます。課題は多々ありますが、とてもいい事業だと思います。子どもたちが、ふるさとの自然を感じながら体験学習ができるよう、まずは継続することから、そしてより良い体験学習へ課題を1つずつでも解決できたらと思います。

学校という枠組みに自然の中で育つ体験を

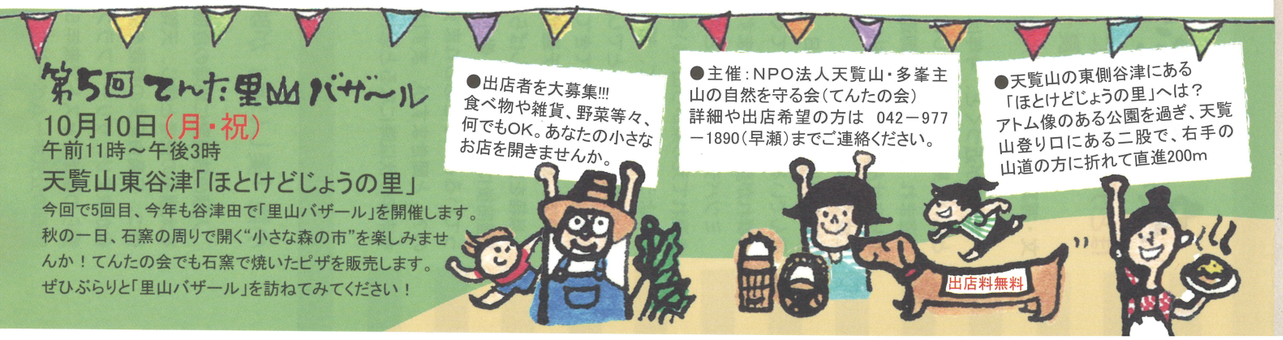
ところで、自然は何で出来ていると思いますか。太陽・土・水・空気そして生き物の5つです。人間も生き物である以上、自然の一部です。人間だけが特別ではありません。生き物は、自分たちのまわりの自然に適応して自然とともに生きています。自然環境を無視して人は生きていけません。ただ、それに気づかない人が増えているのも確かです。本来子どもは、生まれた時から自然の中で育ち、いろいろな自然体験を通して生きる力を身につけてきました。しかし最近は自然の危険性がクローズアップされ、さらに社会的危険性も増えて、子どもだけで外で遊ぶ機会が減っています。両親ともに仕事をする家庭が増え、学校から帰ったら習い事では外で遊ぶ時間はありません。また外は危ないからと家の中にいて、ゲームばかりしているということになりかねません。自然の中には面白いこと、楽しいこと、不思議なこと、役に立つことが沢山あります。今の時代、家庭でそれを体験させられないなら、学校が授業の中で行うしかないのではないでしょうか。

「探検・発見・ほっとけん」！

自然体験の大切さの一つは気づきです。自分のまわりの自然で今何が起きているのか、春になると花が咲き、秋になると葉の色が変わって落ちる、当たり前のことに気づくことです。季節に応じて毎年毎年同じことが繰り返されますが、全く同じではありません。今まであったものが、いつ急になくなるかわかりません。「探検・発見・ほっとけん」と、総合学習が始まったころ新聞で連載が載ったことがあります。まず探検していろいろなことを知り、発見すると、何かあった時にほっとけなくなる。まずは自然を知ること、そうすれば自然に何か変化が起きた時、行動を起こすきっかけになるのではないでしょうか。

環境教育という、難しい言葉にとらわれず、大人も子どもも、まずは自然の中へ一歩を踏み出してみましょう。すてきな発見やおもしろい発見がたくさんあると思います。その中から大事なことが見えてくるのではないでしょうか。さあ、すばらしい大地の中へ出かけてみましょう。

文・写真／原田　恵子（会員）



古民家の将来

文・写真／黒住　浩次
（蕎麦職人・日本アーボリスト協会＊会員）
＊高木剪定の安全確保技術の普及を目的とする団体

職場の裏山にある、クリの木を伐り倒すことになった。樹高25メートル。胸高直径約90センチ。樹齢推定200年。この木は、3年ほど前に枯れ、今はもう芽吹くことがなくなった。ところどころ大雪に痛めつけられ、枝が折れ、ムササビの住処になりそうな洞も口を開けている。伐倒するには、下に墓地があり、張り出している枝が支障になる。特殊伐採の技術が必要となり、仲間と伐倒計画を立て、慎重に作業に取り掛かる。

雨あがりの作業当日、夜明けとともに、伐倒準備をする。下の斜面を整備する者、牽引用のチルホールをセットする者、そして自分は支障枝を切るために高枝にロープを架け登り始めた。枯損木への登行は不安であり緊張する。20メートルほどのところの枝にたどり着き、下界を見下ろす。仲間の一人が言っていた。「木を伐るために木に登ると、ここからの眺めを見る、最後の人間なんだな―っていつも思うんだ。」

この木の、この枝の、ここからの眺めは、伐倒した今となってはもう誰も体験することはできない。カラスや、ムササビ、リスたちが眺めていたこの景色を、最後に眺めた人間になったわけだ。

●

樹上から眺めていてふと疑問に思った。「何故ここにこんな大きなクリの木が残っているんだろう？」職場は奥多摩。周りを眺めてみれば、スギ、ヒノキの黒山が連なっている。戦後の拡大造林の波に乗り、里山はすっかり黒山に代わった。この裏山もそうである。なのになんのためにこのクリの木だけ残してあったのか？疑問の答えはすぐに見つかった。職場は茅葺の古民家。ここをお借りしている。茅葺の屋根を抑えるために棟に乗せる千木（ちぎ）、この素材がクリの木なのだ。固く、重く、家の土台や枕木として使われるクリ。先々代は自分たちの暮らしている家の茅葺屋根の葺き替えを見据えて、次世代のためにこの木を残していたに違いない。

時代は変わり先代は裏山の木を使い、隣に立派な日本建築の家を建てた。一方で築300年の古民家は葺き替え、建て替えの機を逃し、残されたクリの木は旬を過ぎ、枯れて傷み始めてしまったんだ。伐り倒された樹の跡に立ち、ぽっかりとあいた空を見上げ、茅葺の古民家の将来を考えてみた。

環境省・重要里地里山に天覧山・多峯主山が選定！

環境省は、昨年12月18日「生物多様性保全上重要な里地里山」（以下、「重要里地里山」）を天覧山・多峯主山を含む500箇所を選定したと公表しました。これは、人口減少が進む中、すべての里地里山を保全していくことは困難であるため、保全対象とその将来像を明確にし、対策を講じていくことが重要との認識によるものです。

有識者により次の3つの選定基準（2つ以上に該当すること）によって里地里山の生物多様性の状況を評価して選定したとのことです。①多様で優れた二次的自然環境を有する、②里地里山に特有で多様な野生動植物が生息・生育する、③生態系ネットワークの形成に寄与する。埼玉県内では、三富新田、狭山丘陵など11か所が選定されました。内容を見ると、里山や生物多様性の状況などが示されているほか、保全活用状況や活動主体も書かれています。

選定をどうとらえる？

天覧山・多峯主山は、基準で③は非該当でしたが、はんのう市民環境会議、天覧山・多峯主山保全活用のための懇話会（市・西武鉄道・てんた等で構成）の活動が書かれており、こうした保全活動が評価されていることが想像されます。

問題は、重要里地里山に選定されると何か国から支援があるのかということですが、今のところ何もありません。

環境省は、「多様な主体による保全活用の実行性を高める取組の促進・拡大に活用していきます。また、地域における農産物のブランド化や観光資源などにも、広く活用できるものと考えています。」としています。行政などが里山の保全モデルとして活用するほかは、各地域でうまく農産物販売や観光に活用してもらいたいということのようです。てんたの会としては、補助金をもらう際の申請に活用したり、エコツアーでの人集めに活用することなどが想定されます。

選定の位置づけは？

環境省は昨年度、「つなげよう、支えよう森里川海フォーラム」を全国各地で開催し、ラストは2月27日に飯能市で開催しました。森里川海のつながりや循環を維持又は回復し、生態系サービスの恵みが持続的に受けられるようにしながら地域活性化につなげる方向を目指すようです。環境省が力を入れているこうした森里川海プロジェクトの中に「重要里地里山」も位置づけられていると思われます。

文・写真／大石　章（会員）